

建築家 通信

2017.7.31
vol.114

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

設立30周年を迎えて

JIA長野県クラブ 代表 山口 康憲



2016年度の活動から

公益社団法人日本建築家協会(JIA)は1987年に旧建築家協会(JAA)と日本建築設計監理協会連合会が合併し、新日本建築家協会としてスタートしてから今年で設立30周年を迎えました。

設立に中心的な役割を果たし初代会長に就任した丹下健三は、アメリカ建築家協会(AIA)のような団体を目指して、設立に集まった7千余名の会員を将来5万人規模の団体にしたいという希望を持っていて聞いています。施工を伴わない設計業務を専門とするわが国で唯一の団体であるJIAは、当時社会的にもほとんど認知されていなかった建築家の職能とその活動を担保する職能法(建築家法)の確立を目指して設立されましたが、わが国の建築生産における建築家の職能の確立のための5万人という数字は、旧建築家協会のようなサロンの集まりではないつまりそれは建築家のためではなく、あえて言えば国民・消費者のためにこそ必要であると考えられていたと私は感じています。

当時はバブル前夜でもあり高揚感に満ちた設立だったようですが、その後バブル崩壊と冷戦終結でわが国は失われた20年の長い時間を過ごしました。この間世界的にはグローバリズムの蔓延と深刻と言われる環境・エネルギー問題が顕在化し、わが国では少子高齢化による人口減少問題と度重なる大災害が発生しました。建築業界ではデフレによる工事量の減少により長期の低迷期に入るとともに、構造偽装事件を始め建築にまつわる多くの事件が発生しました。

30年を経てわが国の社会構造も変化し、現在では建築家に求められる職能も多岐にわたります。困難な時代ですがそれでも私たちは社会の要請に応え、状況に立ち向かうことが求められています。“建築とは人が集まる場所である”という言葉があります。人がいる限り建築がなくなることはなく、その時代、地域に求められる建築・まち・環境をコーディネートし、アレンジし、造りあげていく責務が私たちにあります。

JIA長野県クラブも1987年に設立され今年30周年を迎えました。4年前に公益法人を選出したJIAは、建築設計の専門家としての知

識と技術を活かして地域の文化・風土・環境に配慮し、建築・まちづくりを通して社会に貢献することを謳っています。私たちはその付託に応えるために常に研鑽を積み資質の向上に努めなければなりません。またそれは会員の為だけではなく広く県内の建築に従事する非会員の皆さんにも公開すべきであるという信念から今年度も「信州温熱教室2017」を開催中です。

私たちは地産地消の取り組みとして、地域材を用いた年間200棟の建設を目指しています。毎年勉強会を開催し、今年は南佐久の唐松の現状を視察し、秋には諏訪の鉄平石のフィールドワークを開催します。外材ではなく地域材が当たり前に使われるようになるまでこの活動は継続されます。

JIAは災害支援活動、復興支援活動、対策・予防活動に実績があります。3年前の神城断層地震では被災度認定の2次調査を中心的な立場で行いました。その経験を生かして昨年の熊本地震でも調査の先遣隊を務めました。今年は秋に宮城地域会との被災地交流で、石巻市の復興支援を勉強します。今年3月に長野県とJIAを含む建築5団体が地震時の住宅相談活動の協定を締結しました。不幸にも災害が発生したときは、全力で支援活動を展開します。

また毎年2月に松本市美術館において、建築祭ー建築文化を広く認知していただくために文化講演会と会員作品展を、長野県下の学生への支援と優れた成果を表彰・紹介するために卒業設計コンクールを開催しています。学生達を応援し、建築の楽しさを学んでもらうことはJIAの使命だと考えています。

私たちJIA会員は現代の新たな職能に最新の技術と最高の情熱をもって取り組むと共にこのような活動を通じて長野県内の地域に寄り添い、地域に根ざした活動を展開して行く所存です。



先日JIAのフィールドワークに参加させて頂きました。天気も良く、南佐久中部森林組合の新津さん案内のもと、北相木村の伐採現場へ行きました。そこは、なだらかな傾斜の山を皆伐し終えたところでした。この地域の唐松丸太を、弊社も購入しておりますが、唐松らしからぬおとなしさと、アテ、ヤニも少なく(造材が丁寧な面も)全て買いたくなる大変良質な丸太です。三年程前の事ですが、現JIA会長の山口さん設計の村営住宅を、相木産唐松製品にして納品させて頂きました。それ以降南佐久中部森林組合さんから、この地域の唐松を弊社に入れて頂いております。弊社は創業から五十年を突破して、細く長くの理念のもと?現在に至っており、山の立木の成長や木材の乾燥、加工技術の変化、更には製品ニーズによる唐松製材品の変化も見られ、変わらなければ消え去るのみ、という現実を突き付けられざるを得ません。さて、現状では二十年位前からすると考えられないような事が、小諸市、東信木材センター(当社も組合員)で見られます。そこでは現在十万立方以上の唐松丸太を扱っておりますが、当時は一万~二万立方位で、存続が危ぶまれるほどでした。この激変をもたらしたのは残念ながら製材工場



芯去り唐松(中温+天乾)

ではなく合板工場です。センターに行くと、県外ナンバーの大型トレーラーが土場のあちこちで積み込みをしています。B材と呼ばれる丸太が殆どで建築製材には不向きな丸太ですので、行く先があつて良かったね、と私は思っています。当然ながら、需要が増すと、供給も増える為、伐採業者さんも活気づくのは勿論の事、良質な丸太は少しでも高く買うのでこちらにも分けて下さいな、というのが製材工場の現実なのです。先日信濃毎日新聞で米松丸太と唐松丸太の価格比較の記事を目にしましたが、大変迷惑な話で、比較対象が違うだろうと新聞への懐疑心を持ちました。(県の方によりますと、とは書いてありましたが)今まで山に目を向けてきた人達が報われる時代は来るのでしょうか?弊社零細ながらも、より良い製品作りや価格変化を含め、一人でも多くの方に唐松製品を使って頂ける様に企業努力をして行かねばならない、と再確認したところで筆を置かせて頂きます。支離滅裂な文言にお付き合い頂き、最後までお読み頂いた方に感謝申し上げます。



相木産唐松住宅

松本市 工芸の五月 建築家と巡る城下町みずのタイムトラベル

—まち歩きが観光スタイルを変える—

野口 大介

風薫る五月、今年で11回を数える「工芸の五月」が松本中心市街地で開催されました。その企画の一つ、旅行社みずのさん「建築家と巡る城下町みずのタイムトラベル」は松本在住のJIA長野県クラブ会員が主体となり、建築士、信州大学大学生の有志がガイドを務めます。ガイドをする為には知識が無ければ出来ません。今年3月から想定されるコースを歩いたり、松本城研究専門員後藤芳孝先生から、江戸時代の松本の武士や庶民の生活・文化のお話をお聞きしたりしながら、タイムトラベルのコースを決め、重要な建築物や場所をトラベルポイントとして組み立てています。市販されているツアーガイドに掲載されていないまちのディープな部分を丁寧に調べ、参加者へ伝えるのがこのツアーの大きな特徴です。毎年大勢の方に参加いただいておりますが、今年は特にお問い合わせが多く、全日程がキャンセル待ちでした。松本城下町の痕跡を探りながら3時間程歩くタイムトラベル。今年は寺社編として城下町南東を巡るコースです。このエリアには今でも多くのお寺がありますが、江戸時代



タイムトラベルの様子

には規模の大きなお寺が今以上数多くありました。江戸時代から明治時代に移り変わる過程で、全国で廃仏毀釈によりお寺が取り潰されました。特に松本では激しくおこなわれ、多くのお寺が取り潰されました。なぜ松本で特



全久院での住職の説明

に激しく行われたのか?その歴史的な背景、関わったお寺、江戸時代と現代のまちの違いなどをその場所で説明をします。参加された方々はとても熱心に説明を聞いていらっしゃいました。

今までの観光は「名所旧跡、温泉、宴会、観光バス、アトラクション巡り」といったパターンで、一度訪れてしまえば二度目は余程の事が無い限り積極的には訪れません。みずのタイムトラベルは「知る、学ぶ、交流する」ことを重視する新しい観光スタイルで、二回、三回と訪れる方が多くいらっしゃいます。まちあるきの楽しさは、「まちを歩いて、独自の文化や生活を知り、住民と触れ合う面白さ」があります。知的なまち歩きがブームとなってきているのではないのでしょうか。

新入会員紹介

法人協働会員

(株)建築資料研究社 日建学院長野支店
柿本 哲さん (長野市)

開催したイベント

- 6月3日(土)・・・地域材フィールドワーク in 南佐久中部森林組合
- 6月17日(土)・・・続・信州“準寒冷地温熱教室 2017”(第1回)
- 6月24日(土)・・・香山先生と語る会
- 7月22日(土)・・・続・信州“準寒冷地温熱教室 2017”(第2回)
- 7月29日(土)・・・夏のセミナー

今後の行事予定

- 8月28日(月)・・・幹事会(第2回)
- 9月16日(土)・・・続・信州“準寒冷地温熱教室 2017”(第3回)

編集後記

JIA設立30年の節目に、山口代表にJIAという団体について、あらためてその意義、使命、そして現在行っている活動について語って頂きました。また、JIAとしての活動を小林木材さんに、会員の地域での活動について野口さんに報告していただきました。個々の設計士として社会や環境に対して少しでもいいように設計努力するのはまた違って、団体になるともっと様々なことが求められるんですね。……………百瀬万里子

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



編集人/百瀬 万里子 発行人/山口 康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com